

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－
	○	商店街（代表者）	・ 賃上げの動きがみられるなか、物価の上昇が続いていることから、商品の購入を考えている人は、値上げ前に早めにおおうという意識が強まっている。このため、今後の景気はやや良くなる。
	○	百貨店（売場主任）	・ ファッション関連の秋物商材の動き出しが好調なことに加え、10月以降、インバウンドが好調に推移すると見込まれることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	百貨店（販売促進担当）	・ 依然として物価高が続いているものの、客の購買行動が以前よりも活発になっている。年末に向けて、大きなイベントが控えていることもあって、こうした傾向はしばらく続くことになる。
	○	スーパー（役員）	・ 米の価格が大幅に値下がりすることから、今後、ごはんの増量セールやおにぎりの値下げセールなどが行われ、それに伴って、消費が多少活発になるとみられる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・ 第4四半期までは、現在の販売量の増加傾向が続くとみられる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・ 9月に大型連休があることから、秋の観光客増加が見込まれる。当店の集客増につながることを期待している。
	○	観光型ホテル（経営者）	・ 9月以降、暑さが一段落し、当地では紅葉シーズンを迎えることになる。国内外からの集客が、比較的好調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	旅行代理店（従業員）	・ 今夏の韓国便の季節運航、今後予定されている関西圏との定期運航などの影響により、個人需要がやや上向いている。法人需要についても、秋以降、周年事業を実施する企業が控えていることから、上向くことが見込まれる。
	○	通信会社（企画担当）	・ 今後については、秋の新機種商戦や各種販売施策により、一定の需要喚起が期待される。それに伴って、料金プランや金融・エンターテインメントサービスの提案機会も増えるとみられる。一方、物価上昇を背景に、客の生活防衛意識が根強いことから、高額商品や不要不急の支出に対して慎重な姿勢が続くことも見込まれる。これらのことから、景気的大幅な改善は見込みにくいものの、現状よりもやや良い水準で推移することになる。
	□	商店街（代表者）	・ 欧米からのインバウンドが増えていることから、今後も好調を維持することになる。ただし、欧米系のインバウンドは物に対する消費行動が今一つであるため、百貨店を中心に売上が低迷することが懸念される。
	□	商店街（代表者）	・ 9月以降、当地では大きなイベントがないことから、例年どおりの状況が見込まれる。来客数の増加を見込めないため、今後も景気は変わらない。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・ 物価高が落ち着くまで、景気の基調は変わらない。
	□	一般小売店（経営者）	・ 景気の変化につながりそうな要因も特段ないため、しばらくは今の状態が続くことになる。
	□	スーパー（店長）	・ 今後も同様の状況が続くことになる。
	□	スーパー（店長）	・ 今後については、電気料金の負担増が懸念されていることもあって、現状と同様に、生活防衛意識の強い状況が続くことになる。
	□	スーパー（店長）	・ 株式市場や為替の動きと同様に、今後の動きを全く読めない状況となっている。
	□	コンビニ（エリア担当）	・ 9月以降も様々な商品の値上げを控えている。正規雇用労働者の給与は増加傾向にあるものの、当地域においては、非正規雇用労働者や年金受給者の割合が多いことから、消費が伸びることは考えにくい。
	□	コンビニ（エリア担当）	・ 景気が良くなっている印象はない。客は必要な物しか買っておらず、価格にも敏感なことから、今後も景気は変わらない。
	□	コンビニ（エリア担当）	・ 中東情勢は落ち着いているものの、原材料価格の高騰による商品の値上げが続いていることから、消費を控えようとする客のマインドは、今後も変わらない。

☐	家電量販店（経営者）	・エアコンなどの季節商材は堅調に推移するとみられるものの、その他の一般家電製品は横ばいで推移するとみられる。
☐	乗用車販売店（経営者）	・先行き不透明な経済環境を背景に、消費者の購買意欲が低下し、新車受注は伸び悩むとみられる。また、地震や水害などの自然災害の影響により、中古車の流通量が不足し、仕入れに影響を及ぼすことも懸念される。中古車の取扱量が減少することになれば、販売にも影響が生じることになる。これらのことから、今後、売上及び利益の確保が難しくなるとみられる。
☐	乗用車販売店（従業員）	・今後については、タイヤ交換の時期となるため、来客数の動きによっては、景気が上向くことも考えられるものの、現状からは、8月と同様の状況が続くとみられる。
☐	乗用車販売店（従業員）	・賃金の増加が、物価上昇に追い付いていないことから、車などの高額商品まで消費が回らない状況にある。中古車は、在庫不足も影響している。これらのことから、今後も、思うように収益を確保できない状況が続くことになる。
☐	乗用車販売店（従業員）	・新車については、年内に新型車が発表される予定がない。中古車については、商品不足がみられる。これらのことから、今後の車両販売については、厳しい状況が続くことになる。
☐	自動車備品販売店（店長）	・物価高により、大半の商品が値上げ傾向にあることから、景気が良くなることは考えにくい。市場の動きなどを踏まえても、消費を上向かせるような要因が見当たらないことから、数年は現在と同様の傾向が続くことになる。
☐	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・相談業務に対応できるドラッグストアはほとんどないため、当店の存在価値を客から認められつつある。今後に向けて、客への周知活動が重要な局面になっている。
☐	その他専門店〔造花〕（店長）	・年々、イベントの需要が落ち込んでいる。ディスプレイ部門や装飾部門に変化はみられないものの、小売販売に活気がみられないことから、今後も厳しい状況が続くことになる。
☐	観光型ホテル（スタッフ）	・客室の稼働率が低下しているものの、客室単価が前年を上回って推移していることから、全体的には前年をやや上回って推移している。こうした傾向は、シーズンの繁閑にかかわらず、ここ1～2年変わっていないことから、今後も同様の傾向が続くことになる。
☐	旅行代理店（従業員）	・秋季を迎え、インバウンドについては、需要の端境期となるものの、首都圏や関西圏との路線を中心に、当地域の航空需要は堅調に推移すると見込まれる。国際線については、中国路線の運休が続いているものの、韓国路線を中心に他路線の需要が伸びていることから、今後の需要が落ち込む要素は少ないとみられる。
☐	旅行代理店（従業員）	・国内旅行需要については、下げ止まりがみられ、やや回復しつつあるものの、海外旅行需要については、減少傾向が続いている。全体的には、今後も緩やかな下降線が続くことが見込まれる。
☐	旅行代理店（従業員）	・旅行相談が例年よりも少ない件数で推移している状況は、今後も大きく変わらない。客の予約行動は、早期化と直前化の2極化が進み、旅行の意思決定が全体的に後倒しになっている。また、オンライン旅行代理店のようなWeb上での検討が定着していることで、旅行代理店への相談に至るまでの期間が長期化している。物価上昇の影響による様子見の動きも強まっている。こうした影響は、短期間では解消できないとみられる。
☐	タクシー運転手	・運賃改定による売上の増加幅が、改定率を下回っていることに加え、乗務員不足も続いていることから、今後の景気が上向くことは期待薄である。
☐	観光名所（従業員）	・今後については、天候次第の面もあるものの、例年並みの観光入込が見込まれることから、目立ったプラスもマイナスもなく推移することになる。
☐	美容室（経営者）	・今後の景気について、良くはならないものの、悪くもならないといった雰囲気がある。そのため、客の来店周期や客単価が固定化する傾向が、当分続くとみられる。
☐	美容室（経営者）	・特に悪い要素も、良い要素も見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
☐	住宅販売会社（従業員）	・住宅需要について、高額物件とローコスト住宅の2極化が進んでいることから、今後も景気は変わらない。

□	住宅販売会社（営業担当）	・客が物価上昇に慣れてきた雰囲気があるものの、手元資金の圧迫感が強まっていることから、購買心理がなかなか上向いてこない。そのため、買い控え又はローコスト住宅を購入する傾向が強まるとみられる。一方、富裕層は、動きが活発であり、客の取り合いになっている。
▲	スーパー（企画担当）	・足元の物価動向は、米の価格が前年と比べて大幅に低下しているものの、それ以外の商材の価格は引き続き上昇している。秋口には、食品の値上げが相次ぐ見通しであるため、この先、客の財布のひもはますます固くなる。
▲	スーパー（企画担当）	・単価の高い米の価格が安くなるとみられることから、米で前年並みの売上を維持することは厳しいとみられる。米以外の商品については、値上げが続いていることで、買上点数の減少は必至である。これらのことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・中東情勢の影響により、秋以降、包材などの値上げが予定されている。米の価格はかなり安くなる見通しではあるものの、米だけで原価の上昇分をカバーすることはできないことから、今後も商品の値上げが続くことになる。さらに、米の価格が安くなっているにもかかわらず、弁当の価格が安くならないことで、客との認識の違いが強まることになり、販売量がかなり落ち込むことが懸念される。
▲	衣料品専門店（エリア担当）	・物価が安くなるような要因が見当たらないことに加え、当地では、これから光熱費が上昇する季節を迎えることになる。気候要因以外に、景気が良くなる要素がないことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	家電量販店（店員）	・7月以降、気温が余り上がらなかったことから、エアコンの動きが悪くなった。今後については、石油暖房器具の動き次第の面はあるものの、年々販売台数が減少傾向にあることから、景気はやや悪くなる。
▲	住関連専門店（役員）	・今後については、多くの商品で値上げが予定されていることから、消費者の節約志向が一段と強まり、商品の販売量が減少するとみられる。そのため、景気はやや悪くなる。
▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・灯油の在庫水準が例年を下回っていることが、冬季に向けての不安要素となっている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・物価高の影響を受けて、今後の景気はやや悪くなる。近所のスーパーでは、以前は食品売場で珍しい魚介類等を扱っていたものの、最近は品ぞろえが抑えられており、セール日でも売れる商品ばかりが目立つようになっている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・他の地域の気候が涼しくなってくことで、涼しさを売りにしている当地を訪れる観光客が徐々に減ることになるとみられる。
▲	タクシー運転手	・例年、夏が過ぎ、涼しくなってくると、タクシーの利用が少なくなる。今年もこれから過ごしやすい季節となることから、タクシーの利用が減り、それに伴って売上も減少するとみられる。
▲	タクシー運転手	・ここ最近、住民が意図的に外出機会を減らし、消費支出を抑えている様子が見える。そのため、前年並みの売上を確保することは難しいとみられる。これから閑散期を迎えることもマイナスである。
▲	タクシー運転手	・全体的な景気が上向いてこない限り、当業界の景気は変わらない。
▲	タクシー運転手	・暑い季節が過ぎ、これから徒歩や自転車などの移動手段が増えてくるため、今後のタクシー利用率の低下が見込まれる。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・季節的なこともあって、今後、旅客、車両共に、観光客の利用が減少すると見込まれる。
▲	住宅販売会社（経営者）	・今後も、金利と物価の上昇が続くとみられることから、住宅購入について余裕を持って資金調達できる客は減ってくることになる。住宅購入に対して、需要を喚起するような対策が行われない限り、業界の景気が上向くことは考えにくい。
×	衣料品専門店（経営者）	・円安が続いていることから、今後の景気は悪くなる。

	×	衣料品専門店（店長）	・物価高の影響で、スーツ関連の売上が大幅に減少している。生活必需品の価格が落ち着かない限り、当業界の消費は上向いてこないとみられる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	農林水産業（経営者）	・今後については、りんごの収穫最盛期を迎えることになる。それ以外の青果物についても、最盛期は過ぎているものの、収穫の続いている時期である。豊作になることで、景気が良くなることを期待している。
	○	通信業（営業担当）	・データセンター、GX関連産業の動きが活発になっていることで、経済の盛り上がりが見られることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・補助金などを活用できていることで、案件の受注確率が上昇している。今後も設備更新や省力化に関連した案件が継続して増えていくとみられることから、景気はやや良くなる。
	□	食料品製造業（従業員）	・この先の売上が大きく増減するような案件が見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
	□	食料品製造業（従業員）	・道内の売上は増加傾向にあるものの、売上が低迷している地域については、中国からのインバウンドの減少による影響が大きく、今後も大きな変化があるとは考えにくい。
	□	家具製造業（経営者）	・今後の景気がどうなるか判断が難しい状況にある。中東情勢の影響に加え、9月以降、食料品で相当数の品目が値上げされると見込まれることから、消費者の動向に大きな影響が生じることを懸念している。
	□	建設業（従業員）	・相談を受ける案件の数も、対応できる人材の数も大きく変わらないとみられることから、現状維持のまま推移する。
	□	建設業（役員）	・円安や物価高騰による建設コストの増加、金利上昇に伴う投資マインドの低下が影響して、受注量が減少することが懸念される。さらに、台風や局地的豪雨による工事遅延も懸念される。こうした環境下で、コスト増加や受注環境の変化に対応しながら、利益を確保していくことが課題となっている。
	□	輸送業（支店長）	・今後も中東情勢などの地政学リスクが懸念されるため、現状維持で推移する。
	□	金融業（従業員）	・中東情勢の影響の長期化、輸入物価及び企業物価の上昇を要因とした消費者物価の上昇、円安、金利上昇などの懸念材料があることから、今後も景況感是不変わる。
	□	広告代理店（従業員）	・今のところ、順調に推移しているものの、景気が大きく上向くような要因も見当たらないことから、景気は変わらない。
	□	司法書士	・相続関連業務が堅調に推移していることから、今後も景気は変わらない。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・インフレが進みつつあるものの、受注残の状況に加え、当面国内建設投資が堅調に推移すると期待できることから、今後も景気は変わらない。ただし、施工床面積やセメント使用量の減少に言及する報道が一部でみられており、今後の動向を注視している。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・人口減少が予想よりも速いスピードで進んでいるため、景気が良くなることは考えにくい。半導体関連企業やAI関連企業の景気が良くなったとしても、大半の企業の業績は悪化するとみられる。
	▲	建設業（経営者）	・複数のメーカーから、材料の単価が上がるとの連絡があったことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・業務量は維持できているものの、事業経費に加え、食料品や電気などの生計費の上昇が続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。景気を上向かせるには、来年から実施予定の食料品の消費税引下げに加え、無駄を省いて価格を抑える仕組みや便乗値上げを防ぐ対策を講じていくことが必要である。
	×	*	*
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・直近の動きとして、求職者の書類推薦や1次面接の件数が増加傾向にあり、選考に進んでいる候補者が潤沢な状態にある。人材紹介では、こうした選考活動が内定や採用に結びつくまで、通常1～2か月掛かることから、現在の企業や求職者の活発な動きが、今後の採用に結果として現れてくることが期待できる。そのため、今後の景気はやや良くなる。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数は底を打ったとみられるものの、中東情勢の影響や株の乱高下で先を見通せない状況にある。求人数が大きく増加するような要因は見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
□	求人情報誌製作会社（編集者）	・10月から最低賃金が56円引き上げられる予定であることから、今後の人件費負担の増加を懸念する企業が多くみられる。人員配置や採用計画を見直す動きもみられ始めている。
□	職業安定所（職員）	・観光需要の回復や堅調な公共投資を背景に、景気は緩やかに持ち直していくと期待している。ただし、物価高に伴う個人消費の低迷がみられることで、新規求人数が減少することも懸念される。
□	職業安定所（職員）	・当地の新規求人数は前年比で2.0%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。一方、月間有効求人数は、9か月連続で前年を下回った。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることが懸念される。
□	職業安定所（職員）	・新規求人数の減少が続いているものの、それが景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。ただし、事業主の高齢化や後継者不足による事業廃止の動きが増えていることは気掛かりである。また、最低賃金引上げの影響が出てくることも懸念される。
□	学校〔大学〕（就職担当）	・物価高を背景に、企業の採用姿勢が慎重になっており、求人数が伸び悩んでいる。ただし、建設業や医療福祉関連などは人手不足が続いており、採用数の増加を期待できる業種も一部ある。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・物価高に歯止めがかからないことから、中小企業のコスト負担が大きくなっている。そのため、今後の景気が良くなることは考えにくい。
▲	職業安定所（職員）	・中東情勢の先行きが引き続き不透明なことが懸念材料となっている。ナフサ関連については、以前のような流通段階での目詰まりは解消しているものの、価格が高止まりしており、業種を問わず経営を圧迫している。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
×	*	*